

世界旅打ち気分

●第75回・ニュージーランドの競馬場2場

須田鷹雄



写真1) 看板のところだけ改修されたアレクサンドラパークのスタンド



写真2) 世界でも貴重な「右回りのハーネス」



写真3) ニュープリマス競馬場のレース風景

<https://www.instagram.com/sudatakaashoten/>

今回はこの連載であまり扱ってこなかったというか、筆者があまり行っていないニュージーランドから2場をご紹介します。

ひとつめは、オークランドにあるアレクサンドラパーク。ハーネス繋駕速歩の競馬場である。

オークランドは日本人が行く機会もありそんな都市だし、その中心部から南方に車で15〜20分ほどのところなので、アクセスも容易だ。ちょっと時間はかかるがバスなど公共の交通機関で行くこともできる。

筆者が最初にここへ行ったのは2002年の12月。実はオセアニアで最初に訪れた競馬場だった。当時筆者は日曜日にレギュラー番組があり、長めの海外渡航をするチャンスは年末年始くらい。そこで有馬記念が終わってすぐに出国し、当時あったスターフライアンス環太平洋航空券でロサンゼルス→オークランド→東京という旅程を組んだのだった。

オークランドで最初に目的としていたのは元日にエラスリー競馬場で行われるGレースだったのだが、ネット上で現地滞在の方に大海日にアレクサンドラパークでハー

ネスの大レースもありますよと教えていただき、訪問した次第である。

それから20年以上経って再訪したのが昨年の1月。なにしろ20年経っているのでもちろん記憶はあいまいだったが、ガラス張り3階建てのメインスタンドは全く変わっていないかった。

ただ、写真で「ALEXANDRA PARK」と書かれているところ、ここだけは20年前とは変わっている。もともとここは建物に直接青い文字で競馬場名が書かれていて、その書体がいかに70年代風といつか、よく言えばレトロ、悪く言えば時代遅れな感じだった。競馬場を改修するどころかのタイミングで、今風のデザインに変えたようだ。

アレクサンドラパークでいけば、特徴的なのは、レースが右回りで行われること。統計をとったわけではないが、ハーネスは左回りである率が相当に高いはず。以前に本連載で「芝コースでやるハーネス」として同じニュージーランドのハウエラランギロアを紹介したが、それらの競馬場も左回りで行われている。オーストラリアは二

ユーサウスウェールズ州とクイーンズランド州がサラブレッド競走を右回りに統一しているが、その2州でもハーネスは左回りしか記憶にない。

ちょうどいい機会なので「ハーネス 時計回り」のような検索をかけてみたところ、2011年の海外掲示板サイトで、「アレクサンドラパーク以外に右回りのハーネスってあるの?」みたいな質問を投げかけている人がいた。

そこでのやりとりによると、ニュージーランド北島のルアカカが右回りだったとのことのだが、調べた範囲では現在開催は無いようだ(サラブレッドの競走はしている)。さらにそのやり取りによると、オーストラリアでもホークスベリーやリッチモンドにハーネスがあった時代は右回りだったとのこと。また現在でも開催しているアルピオンパーク(クイーンズランドブリスベン)も1970年代まで右回りだったのではとのことだが、正確なところを確認するすべがない。フランスに右回りがあったような気がするという話も出ていたが、正確には確認できなかった。

いずれにしても、主要場と呼べ

るレベルのハーネス場が右回りであることはほとんどなく、貴重な競馬場としてアレクサンドラパークを訪れてみる価値はあるだろう。

周辺は宅地化しており、競馬が斜陽化すると廃止話が出てきそうで怖い(競馬場は都市部のほうが潰されやすい)が、オークランドシヨウグラウンズというイベント会場も兼ねているようなので、こちらの意義をアピールしつつ継続していくてほしいところである。

今回ご紹介するもうひとつの競馬場は、ニュープリマス競馬場。ニュープリマスは北島にある。その規模の街で、オークランドから車だと6時間くらいかかる。正直車ではしんどい距離で、オークランドとニュープリマスの間には航空路線もある。

競馬とは全く関係ない話だが、読者が現地に行くとき参考になるかもしれないので、「ニュージーランドの国内線」というお話をさせていたきたい。筆者はオークランドから飛んだのだが、チェックインして荷物を預け、搭乗ゲートに向かう……としたら止められた。「この便はまだだ」と。

搭乗時間の15分前くらいになつて「入ってよし」ということになったのだが、そこから保安検査を受けていたら間に合うのだろうか……と不安なところ。しかし、いざ行ってみたら保安検査は無かったのである。

まさかと思うだろうが、「ニュージーランドでは一部の主要路線(オークランド・クライストチャーチ間とか)こそ手荷物検査があるものの、地方路線の小型機に乗る際には手荷物検査が無いのである。ハイジャックし放題じゃんという気もするが、それで大丈夫というのは治安の良さを示すものでもあるう。

ニュープリマスはレンタカーも印象的だった。大手がどこも高いので、「空港借りだし・空港返車のみ」という地元のレンタカーを予約していたのだが、空港に着いてカウンターに行くとき誰もいない。そこにあった電話番号に電話すると、「駐車場」の端にうちの会社のロットがある。脇にキーボックスがあるので、そのダイヤルを×××番に合わせると開くので、そこから車のキーを出せ」とのこと。行ってみると、確かにそれでキーは出てきた。

返車のときは満タンにしてその駐車場に置き、キーボックスにキーを入れて番号を00000かなにかに変えておくのだ。

これも、ただか4ケタの番号なので泥棒に総当たりされたら車盗まれるじゃんと思うのだが、そうはならないのが治安の良さなのだと思っ。

競馬そつちのけで旅の話をしてしまったが、実際の話、ニュープリマス競馬場はそこまでキラがある競馬場ではない。コースの正面にはラメルラウンジという平屋のスタンドがあり、コースとスタンドの間にマウンティングヤード(パドック)がある。ラウンジのパドック側はテールブルが並んでおり、ここを予約できればレースもパドックも目前という1日を過ごせるのだが、一見さんがふらっと行く場合にはそれは無理である。

ただ競馬場としての地位はそれなりなので、ジョッキも良いメンバーが来る。また「ニュープリマス」という街自体、観光地というほどではないが海辺で雰囲気の良い街なので、旅行と開催スケジュールが合うなら行ってみてほしい競馬場である。